

平成 28 年度 多職種連携等調査研究事業 報告書



目次

市民意識調査	1
歯科と生活習慣病対策委員会	8
市民向けリーフレットの改訂	10

平成 29 年 3 月

北九州市保健福祉局健康推進課 口腔保健支援センター
一般社団法人 北九州市歯科医師会

市民意識調査

I 調査の概要

1. 趣 旨

本市では、平成 25 年 3 月「北九州市健康づくり推進プラン」を策定した。このプランの中で、歯と口の健康と全身疾患の関係性に着目し、重点事業として「成人歯科保健事業」を位置づけた。さらに、目標指標として「歯周病と糖尿病の関係を知っている者の割合の増加」を設定した。

今回、次期「北九州市健康づくり推進プラン」策定の基礎資料とするため実施した「平成 28 年度北九州市健康づくり実態調査」の中で、「歯周病と糖尿病の関係を知っている者」をあわせ、歯と口の健康と全身の健康との関係についての認知状況についても調査を行った。

2. 調査方法

郵送による調査票の配付、回収

3. 調査対象

市民のうち就学前の子ども（2,000 人）、小学生（2,000 人）、中高生（2,700 人）、青年期（2,600 人）、壮年期（2,000 人）、高齢期（2,000 人）に該当する方を住民基本台帳から無作為に抽出した。

※ 今回の報告には青年期、壮年期及び高齢期のデータを利用

4. 調査内容

市民の健康に関する意識について調査を行った。

今回の報告については、下記設問のとおり、歯と口の健康と全身の健康との関係について調査を行った。

問 歯・歯ぐきや口の健康と全身の健康との関係について、次のことを知っていますか。
(〇はいくつでも)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. よく噛んで食べることは肥満の予防や解消につながる2. 喫煙（タバコ）は歯周病（歯槽膿漏^{しそうのうろう}）に悪い影響を与える3. 歯周病（歯槽膿漏^{しそうのうろう}）と糖尿病は相互に深い関係がある |
|---|

4. 歯、歯肉、口腔（お口）の健康は、全身疾患（動脈硬化、脳血管疾患、心疾患等）と関係がある
5. 歯、入れ歯、舌等を清潔にする「口腔ケア」は肺炎（高齢者の誤嚥性肺炎等）の予防につながる

5. 調査期日

平成 28 年 11 月 25 日（調査票発送）～平成 28 年 12 月 26 日（回答締め切り）

6. 回収状況

年齢層	発送数	有効回収数	有効回収率
青年期（19～39 歳）	2,600	796	30.6%
壮年期（40～64 歳）	2,000	812	40.6%
高齢期（65 歳以上）	2,000	1,100	55.0%

7. 年齢層別人数

青年期	19－29歳	30－39歳	不明	計
	316	457	23	796
壮年期	40－49歳	50－64歳	不明	計
	281	492	39	812
高齢期	65－74歳	75歳以上	不明	計
	562	484	54	1,100

8. 調査機関

北九州市保健福祉局健康医療部健康推進課

9. 集計分析上の注意事項

- ・ サンプル数は「N」で標記している。
- ・ 集計値は原則として回答数の合計を 100 とした場合の構成比で、小数点第 2 位以下を四捨五入した値で示しています。このため、内訳の合計が 100%にならない場合がある。
- ・ 複数回答（2 つ以上の選択肢を回答）は原則として 100%を超える。
- ・ 今回の集計分析には速報値を利用しているため、最終的に公表される「北九州市健康づくり実態調査」結果と異なる場合もある。

II 調査結果

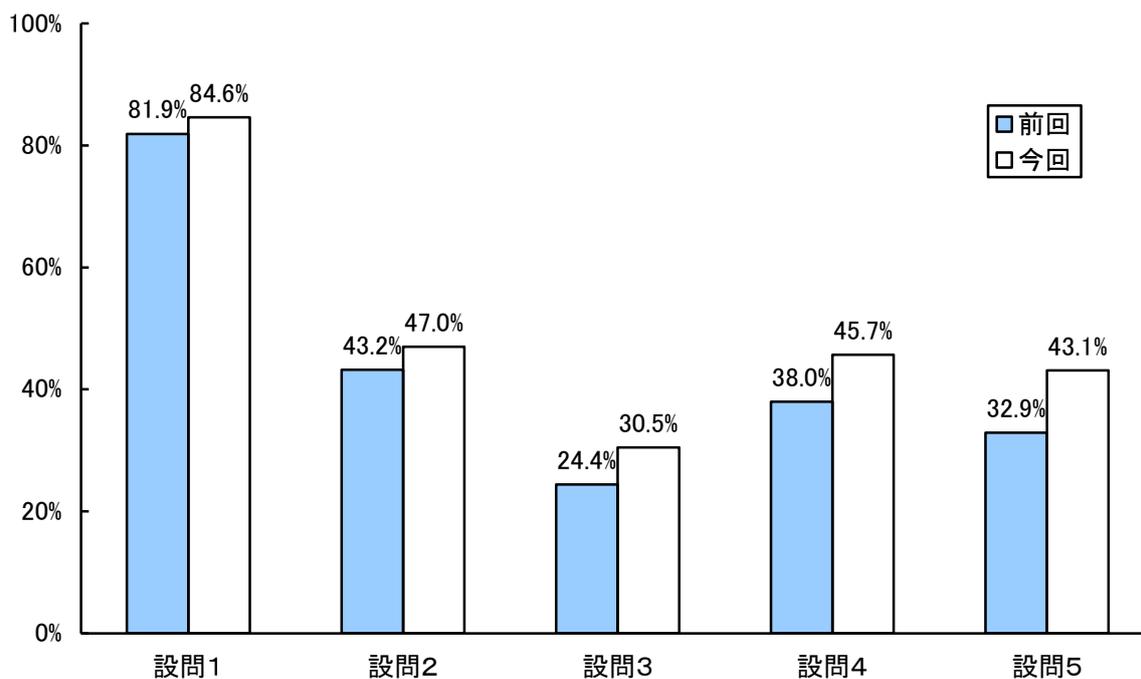
1 前回（平成 23 年度）調査結果との比較

各項目の認知度について、前回と今回（平成 28 年度）の調査結果を示す（図 1）。

前回、今回とも「よく噛んで食べることは肥満の予防や解消につながる（設問 1）」認知度が最も高く、一方、「歯周病（歯槽膿漏）と糖尿病は相互に深い関係がある（設問 3）」の認知度が最も低かった。

各項目とも認知度は前回より今回のほうが高くなっていて、特に「歯、入れ歯、舌等を清潔にする「口腔ケア」は肺炎（高齢者の誤嚥性肺炎等）の予防につながる（設問 5）」の認知度は 32.9%から 43.1%と約 10 ポイント増となっており、最も認知度が増加していた。

図1 前回と今回の調査結果(19歳以上)



設問 1 : よく噛んで食べることは肥満の予防や解消につながる
設問 2 : 喫煙（タバコ）は歯周病（歯槽膿漏）に悪い影響を与える
設問 3 : 歯周病（歯槽膿漏）と糖尿病は相互に深い関係がある
設問 4 : 歯、歯肉、口腔（お口）の健康は、全身疾患（動脈硬化、脳血管疾患、心疾患等）と関係がある
設問 5 : 歯、入れ歯、舌等を清潔にする「口腔ケア」は肺炎（高齢者の誤嚥性肺炎等）の予防につながる

2 年齢層別の認知度

各項目の年齢層別の認知度を示す（図2～6）。

年齢層で認知度の差が大きかったのは、「歯、入れ歯、舌等を清潔にする「口腔ケア」は肺炎（高齢者の誤嚥性肺炎等）の予防につながる（設問5）」で、最も認知度が高い75歳以上が56.2%、最も低い19～29歳が31.3%とその差が24.2ポイントであった。他の設問では、約15～16ポイントであった。

図2 「よく噛んで食べることは肥満の予防や解消につながる」認知度

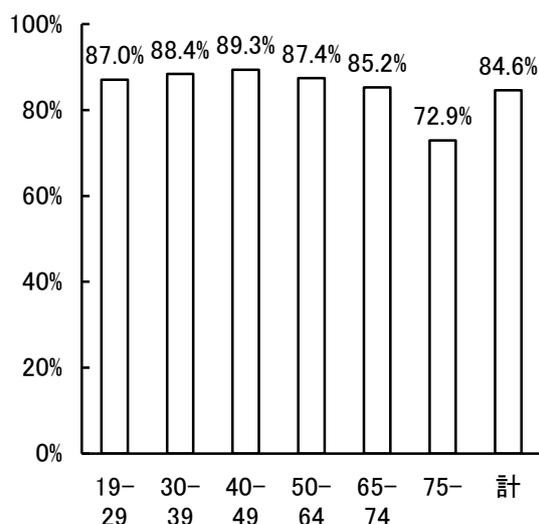


図3 「喫煙(タバコ)は歯周病(歯槽膿漏)に悪い影響を与える」認知度

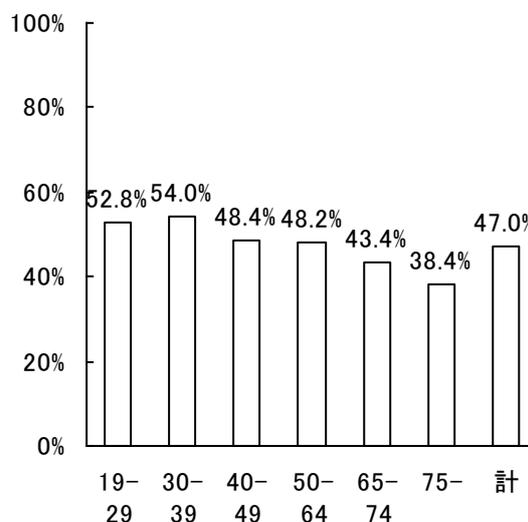


図4 「歯周病(歯槽膿漏)と糖尿病は相互に深い関係がある」認知度

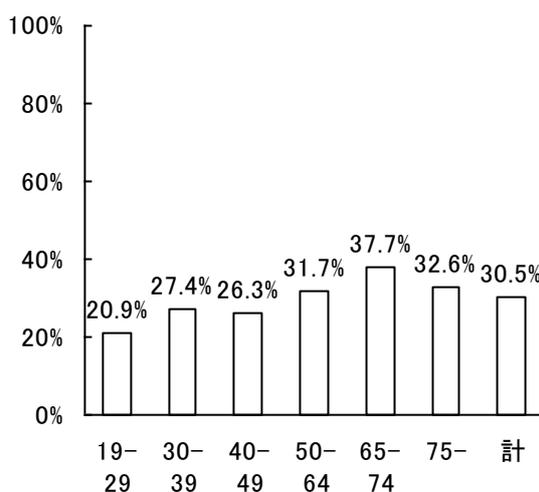


図5 「歯、歯肉、口腔(お口)の健康は、全身疾患(動脈硬化、脳血管疾患、心疾患等)と関係がある」認知度

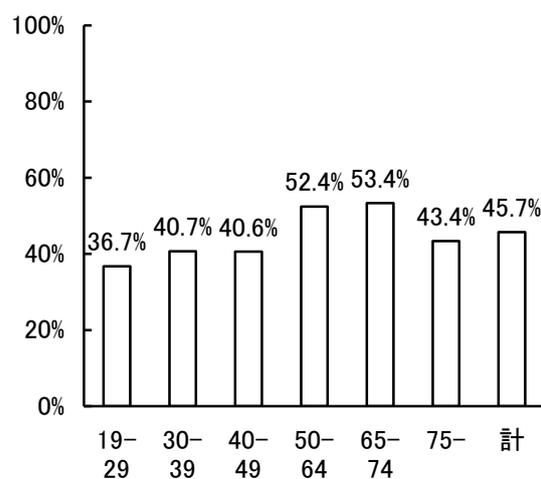
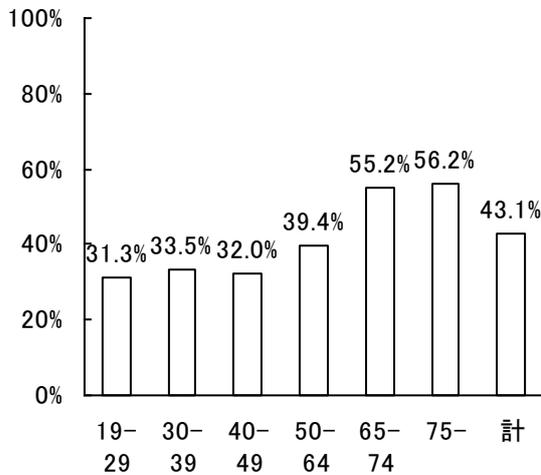


図6 「歯、入れ歯、舌等を清潔にする」「口腔ケア」は肺炎(高齢者の誤嚥性肺炎等)の予防につながる」認知度



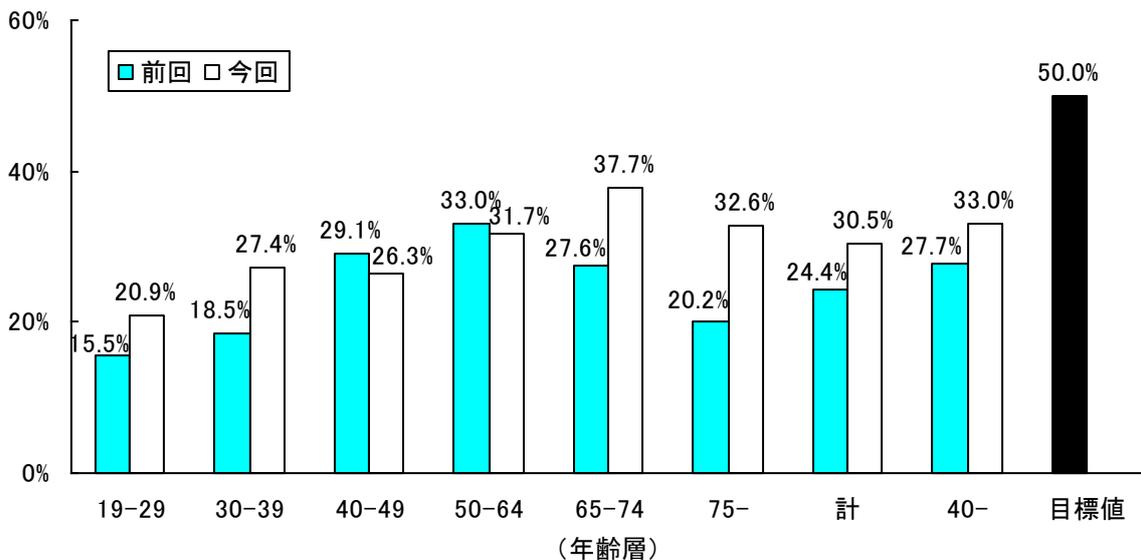
3 「北九州市健康づくり推進プラン」指標達成状況

「北九州市健康づくり推進プラン」では、40歳以上の「歯周病（歯槽膿漏）と糖尿病は相互に深い関係がある」認知度を50%以上とすることを目標としている。

前回、今回の年齢層別認知度と目標値を示す（図7）。

青年期、高齢期では認知度は高くなっているが、壮年期で前回より認知度が低くなっている。また、指標である40歳以上でみると、今回の結果は前回より約5ポイント高い33.0%となっているが、目標値50%には到達していない。

図7 「歯周病(歯槽膿漏)と糖尿病は相互に深い関係がある」認知度



Ⅲ 考察

「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」の中で国が示している具体的な目標・計画を参考に、本市でも平成 25 年 3 月に策定した「北九州市健康づくり推進プラン（以下、「プラン」という。）」の中で歯科口腔保健に関する目標を設定している。

プランでは、歯科疾患と全身疾患の関連性に注目し、重点事業として「成人歯科保健事業」を掲載、特に本市の健康上の課題の 1 つである糖尿病との関係に着目した歯周病予防・重症化予防対策について取り組むこととし、市独自の目標として「歯周病と糖尿病の関係を知っている者（40 歳以上）の割合の増加」を設定することとした。

ベースラインとなった「平成 23 年度北九州市健康づくり実態調査（以下、「前回調査」という。）」での現状値は 27.7%であり、40 歳以上の市民半数に周知することを目指して、目標値を 50%とした。

今回の調査に先立ち、平成 26 年度に歯科医師を対象に実施した調査では、「歯周病と糖尿病の関係を知っている者の割合」は 96.4%、平成 27 年度に医科医療機関従事者を対象に実施した調査では医師で 89.6%、看護師で 81.7%と医療専門職には概ね一般的な常識となっていることが伺えた。しかし、医療専門職ではない事務職等では 47.6%と半数に満たない結果であり、まだ一般的には浸透していないものであることが予想された。

今回の調査では、前回調査より認知度が増加した年齢層が多かったものの、特に生活習慣病の罹患に注意が必要な壮年期で認知度が増えていなかった。また、最も認知度が高かった 65～74 歳の年齢層においても認知度が 37.7%と目標である半数に達していなかった。

これまで目標値の達成に向け、歯科医療機関を対象とした調査、研修、市民向けリーフレット（以下、「リーフレット」という。）の作成、医科医療機関の従事者を対象とした調査、歯周病と全身疾患の関係に着目した新たな歯科保健指導メニューの作成等を行った。

リーフレットについては、毎年改訂を行い、医科医療機関に配布を依頼する等、他職種の協力もいただいていた。

あわせて、中小企業団体の広報誌に啓発媒体を同封、健康教室等の場等での啓発等を行ってきたところである。

さらに今年度は、昨年度改訂された「糖尿病連携手帳」の活用による医科歯科連携の推進を図るため、リーフレットを改訂し、薬局でも配布を依頼することとしている。

口腔の健康と全身疾患との関係については、今回調査を行った他の設問も認知度が前回調査よりもあがってはいるものの、もともと認知度が高かった「よく噛んで食べることは肥満の予防や解消につながる」以外は半数に達していない状況である。

糖尿病と歯周病の関係に特化した啓発も引き続き行っていくとともに、他の全身疾患との関係性の周知も重要な課題であり、効果的な啓発方法について、様々な関係者の意見を伺いながら、検討していきたい。

歯科と生活習慣病対策検討委員会

医科歯科連携等調査実証事業の内容について検討するため、委員会を開催した。

I 委員会概要

1. 実施要領

1 趣 旨

歯科と生活習慣病対策を実施するにあたり、各専門職種の実情に応じた具体的な検討を行って企画、立案、検証していくために委員会を設置するもの。

2 検討事項

- (1) 糖尿病患者を対象とした歯科保健指導マニュアルの作成について
- (2) 市民向けリーフレット活用状況の調査について
- (3) その他、歯科と生活習慣病対策の推進について

3 構成等

- (1) 本委員会は、次に掲げる本事業の関係機関等から選出された者、その他関係職種で構成する。
 - ① 北九州市歯科医師会・各区歯科医師会（7名）
 - ② 福岡県歯科衛生士会（1名）
 - ③ 九州歯科大学（1名）
 - ④ 北九州市医師会（2名）
 - ⑤ 北九州市薬剤師会（1名）
 - ⑥ 北九州市保健福祉局健康推進課（2名）
- (2) 委員会に委員長を置く。
- (3) 委員会の議長は委員長をもって充てる。

4 招集等

- (1) 委員会は、委員長が招集する。
- (2) 委員会の委員が出席できない場合には、代理の者を出席させることができる。

5 庶務

委員会の庶務は、本事業の受託団体が担当する。

2. 委員名簿

所 属 ・ 役 職	氏 名	備 考
北九州市歯科医師会理事・学術委員会委員長	山 口 祐 典	委員長
門司歯科医師会	中 野 稔 也	
小倉歯科医師会	中 野 宏 俊	
若松歯科医師会	中 島 隆 喜	
八幡歯科医師会	大 藏 雅 文	
戸畑歯科医師会	古 田 功 彦	
九州歯科大学 口腔治療学講座 歯周病制御再建学分野	臼 井 通 彦	
北九州市医師会	杉 本 英 克	
北九州市医師会	横 溝 由 史	
北九州市薬剤師会	増 本 順 子	
福岡県歯科衛生士会	竹 邊 千 恵 美	
北九州市保健福祉局健康推進課長（口腔保健支援センター長）	古 賀 佐 代 子	
北九州市保健福祉局健康推進課歯科保健担当係長	仲 山 智 恵	

II 開催状況

平成 28 年 12 月 12 日（月） 19:30～20:30

報告

- (1) 歯周病検診結果について
- (2) 歯周病セルフチェックシートの利用状況について
- (3) 平成 28 年度健康づくり実態調査における歯の健康関連調査について

議題

- (1) 平成 29 年度の歯科と生活習慣病対策について
保険者努力支援制度における評価指標の候補の提示について
- (2) その他

※ その他必要に応じ、委員会メーリングリストで意見交換を行った。

